第17回

青春21文字のメッセージ

電車と青春21文字プロジェクト

第17回

青春21文字のメッセージ

青春21文字メッセージ

プロジェクトマークについて

21 文字メッセージ事業をより多くの方に知って頂くため、作品掲示や広報の際にアイコンとして、プロジェクトマークを滋賀県内のデザイン団体と学生との共同で作成しました。

「ことばが光ると　おもいが届く」というキャッチコピーと滋賀県・琵琶湖・青春・文芸を表現するシンボルマークは、柔らかさと知性を特に意識しました。

21文字プロジェクトとは

「京阪（石山坂本線）は向かい合わせの席が青春ぽいから好き！」、沿線の女子中学生の言葉です。この何気ない言葉からこの活動は生まれました。沿線に数多くの学校があり、大津市で琵琶湖に沿って走る京阪電車石山坂本線は青春路線。その駅数21に因んだのが「青春21文字のメッセージ」です。２００６年にスタートした第1回から最終審査員をお願いしています俵万智さんは、学生時代に路面電車で通学されていて、毎回素敵なコメントをいただいています。

回を重ねて協力いただく団体・企業が増え、このプロジェクトは滋賀県域から全国に広がってきています。電車から生まれたこの活動、入口「交通」、切り口「文化・文芸」、出口「観光」を合言葉に、滋賀県発の新しい独自文芸が、心豊かなまちづくりにつながることを願っています。

はじめに

琵琶湖に沿って走り、沿線に学校の多い京阪電車石山坂本（いしやまさかもと）線の駅数21に因んで始まった新様式の文芸表現「青春21文字のメッセージ」。

第17回となる今年は、コロナ禍から抜け出し先へ進むという思いを込めて「出発」「駅舎」「笑顔」の3つのサブテーマで作品を募集。明るく元気で心温まる作品が多く寄せられました。

今年もクラウドファンディングを実施。昨年に引き続いて、滋賀県の「令和5年度滋賀をみんなの美術館に」プロジェクトに採択され、県立美術館で入選１００作品を展示しました。会場で来場者が「21文字ｉｎ美術館」賞を選ぶ、またこれまでの優秀作品を朗読するという試みも初めて行いました。

17回目となった本事業ですが、２００６年の当初は「電車と青春・初恋」として、電車は恋をはぐくむ場」であることに着目していました。

今回、「ほのぼのとした日常」を謳う作品が多くみられました。コロナ禍を経たいまだからこその世界観かと思います。空気と同じように日々見慣れた電車という鉄の塊が非日常の世界も生み出す。当初は想定外ではありましたが　そんな世界観を、共感できる優しい言葉で表現し感動を生み出せる事業なのだなと気づきました。

目　次

21文字プロジェクトとは　1
はじめに　2
これまでの軌跡　5
過去の応募点数　6
第17回受賞作品　7
滋賀県知事賞　8／大津市長賞　9／青春賞　10／さわやか賞　11／ユーモア賞　12
近江勧学館賞　13／京阪電鉄賞　13／近江鉄道賞　14／信楽高原鐵道賞　14
西日本旅客鉄道賞　15／比叡山鉄道賞　15
入賞作品　17
入選作品　23
団体賞　50
審査員コメント　51
俵万智さん総評　54

滋賀県知事祝辞　56
大津市長祝辞　57
今年の活動を振り返る　59
クラウドファンディングについて　60
「滋賀をみんなの美術館に」概要と「21文字ｉｎ美術館」賞の発表　62
画家 寺田みのるさんコメント　66
前回（第16回）受賞者コメント　67
あとがき　71
協力者リスト　73

これまでの軌跡

２００１年：大津のまちづくりについて、行政からの呼びかけに応じて市民団体が「京阪電車石坂線」をまちづくりのテーマの一つとして提案
２００３年：「石坂線21駅の顔づくりグループ」として活動開始
２００６年：「電車と青春21文字のメッセージ」事業開始
２００７年：企業とＮＰＯの協働を顕彰する「第５回パートナーシップ大賞」グランプリ受賞
２００８年：「あしたのまち・くらしづくり活動賞」内閣官房長官賞受賞
２０１２年：ＮＨＫ大津の地域発ドラマ「石坂線物語」に「21文字メッセージ」が原作として使用され３編の単発ドラマが製作された
２０１５年：10年目を迎え「電車と青春21文字プロジェクト」を結成。クラウドファンディング、ＮＨＫとの連携「（番組）あほやねん！ すきやねん！」など10周年記念事を実施
２０１６年：文化経済フォーラム滋賀～文化で滋賀を元気に！賞２０１５　大賞受賞
２０１７年：「電車と青春21文字プロジェクト」として、大津市との協働提案事業として実施
２０１８年：滋賀県の後援・連携で県内の公共交通である近江鉄道にも活動が広がる
滋賀トヨペット㈱の協賛で作品集を作成・発行
２０１９年：滋賀県協働提案実施事業として活動
県域での公共交通として信楽高原鐵道とも連携
写真、デザイン、音楽などの他分野団体とコラボする文化活動に発展
シンボルマークを制定

2020年：前年に引き続き滋賀県協働提案事業として活動し、西日本旅客鉄道とも連携
2021年：「第15回目実現プロジェクト」としてクラウドファンディングを実施し事業を継続
2022年：ブルボン吉田記念財団「2022年度 文化芸術・スポーツ振興活動」助成事業、令和4年度「滋賀をみんなの美術館に」プロジェクト事業採択、クラウドファンディングを実施
2023年：令和5年度「滋賀をみんなの美術館に」プロジェクト事業採択。県域での公共交通として比叡山鉄道（坂本ケーブル）とも連携、クラウドファンディングを実施。

●過去の応募点数

第1回（2006年度）	2355点（47都道府県）	
第2回（2007年度）	2621点（〃）	
第3回（2008年度）	2017点（〃）	
第4回（2009年度）	1903点（〃）	
第5回（2010年度）	1905点（〃）	
第6回（2011年度）	2948点（〃）	
第7回（2012年度）	3042点	
（中国、アメリカも）		
第8回（2013年度）	3778点（スイスも）	
第9回（2014年度）	5048点	
		（韓国、フィンランド、シンガポール、アメリカも）
		第10回（2015年度） 4603点（47都道府県）
		第11回（2017年度） 4999点（〃）
		第12回（2018年度） 4527点（〃）
		第13回（2019年度） 4017点（〃）
		第14回（2020年度） 5350点（〃）
		第15回（2021年度） 4285点（〃）
		第16回（2022年度） 4557点（〃）
		第17回（2023年度） 5022点
		（台湾、カナダ、アメリカ 46都道府県）

第17回受賞作品

京阪電車　京阪膳所駅ときめき坂

滋賀県知事賞

子ども切符を買った子の手に十円の跡

中西　太（滋賀県　67歳）

【俵さん講評】

硬貨の跡がつくほど、ぎゅっと握りしめていたんですね。もしかしたら初めて切符を買ったのかもしれません。その緊張感や嬉しさを「十円の跡」が伝えてくれます。細やかな観察眼が素晴らしい作品です。

大津市長賞

さり気なく譲る少年。お腹の子もそう育てたい。

つべる（神奈川県　31歳）

【俵さん講評】

「恩送り」という言葉を思い出しました。恩を直接返すのではなく、自分がされて嬉しかったことを次の誰かにして、恩を送るという考え方です。少年の思いやりが未来につながっていくようで心が温まります。

青春賞

友達とのたわいもない話と残り1ヶ月の定期券

葉山 あも（東京都　29歳）

【俵さん講評】

三月までの定期券でしょうか。おそらくは、それ以降は、それぞれの道を歩き出すのでしょう。なんでもない会話も、タイムリミットを意識すると特別なものになります。青春ならではの時間感覚にぐっときました。

さわやか賞

無口な君が席をゆずる。私の心の席に君が座る。

堂坂　歩由（滋賀県　12歳）

【俵さん講評】

一文めは実際の席で、二文めは比喩的な席。対句的な表現が鮮やかで、切れ味のよい言葉のセンスに感心しました。君に心を奪われた様子を「座られた」としたところに、恋の不可抗力性がみごとに表現されています。

ユーモア賞

おつかまりください　混んでいるから僕の腕に

まりあ（東京都　21歳）

【俵さん講評】

混んでいるから吊革に……ではないところが、くすっと笑えます。たぶん混んでいなくても、つかまってほしいんですよね。

出だしの車内放送のような口調も効いています。

近江勧学館賞

傾けど勇気届かずやじろべえ　肩に頭を載せたい日々よ

牛尾　玲（京都府　23歳）

京阪電鉄賞

雨の日は朝からそわそわ。君が電車を使うから。

Ｓｕｚｕ（東京都　18歳）

近江鉄道賞

等間隔に空いたロングシート。法則乱した君と僕

ハイビッグ（京都府　32歳）

信楽高原鐵道賞

家以外にも「お帰り」を感じる駅がある幸せ。

村田　千賀子（東京都　53歳）

西日本旅客鉄道賞

押し入れの古いスケッチブック。今は無い故郷の駅舎。

住吉　美和子（大阪府　60歳）

比叡山鉄道賞

上りの君と下りの私　向かい合うのにすれ違う

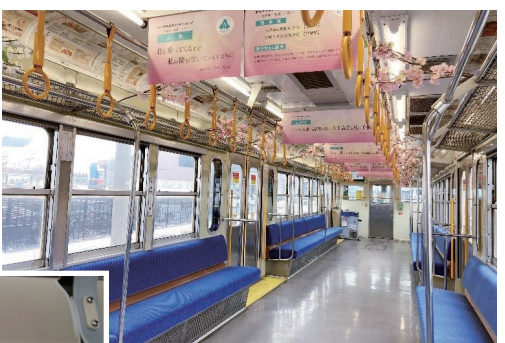
川村　来莉（静岡県　17歳）

京阪電車車内

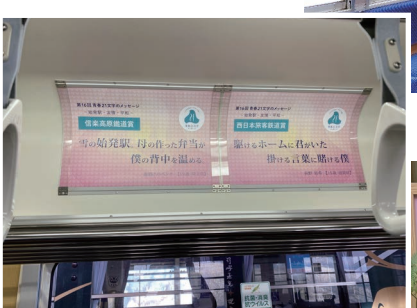
青春号（京阪電車）

第 16 回入賞作品展示の様子

（2023 年 2・3 月撮影）



近江鉄道車内



信楽高原鐵道車内

商店街での展示

入賞作品

京阪 交野市駅

君が好きだと叫びたい　発車ベルに負けない声で

浅井　春子（滋賀県　17歳）

抱っこで見ていた電車を、抱っこで見せている。

嶋崎　迅平（埼玉県　26歳）

見合わせで　動かぬ電車と動いた関係

電猫（神奈川県　21歳）

見知らぬ駅舎で缶コーヒー　慣れてる振りの一人旅

中立 明子（熊本県　35歳）

母さん、私50越えたんよ。駅まで一人で大丈夫。

中村　智美（滋賀県　56歳）

くるまいすベビーカーみんなのれるえきになあれ

長谷川　陽菜（京都府　6歳）

3歳児 推しの電車を語る時だけやたらと流暢

平山 暁生（東京都　36歳）

いいなぁ電車は進路が決まってて。僕まだ駅構内よ

フジ（滋賀県　18歳）

「もう立っちゃったんで」照れ笑いの譲り文句

藤咲　沙久（大阪府　31歳）

私の推しはさわやかな笑顔が素敵な駅員さん

前田　蘭奈（滋賀県　12歳）

入選作品

JR 三ノ宮駅

電車の窓で、君に会う前に笑顔の最終チェック。

藍野　白砂（埼玉県　18歳）

発車ベルにのって　手をふる君を連れていきたい

秋里　菜月（愛知県　47歳）

無人駅 あちらとこちら あなたと二人 影が重なる

安城　あやか（愛知県　30歳）

駅舎で一緒に雨宿りリュックに傘を潜ませながら

杏（東京都　22歳）

君の笑顔を追い続けここどこだ。私も恋も迷子中。

池部　穂花（滋賀県　13歳）

デデン、デデンの音が好き孫の笑顔と石坂線

上田　幸男（滋賀県　75歳）

ホーム越しで部活帰りの君に振る手には単語帳

うどん食べ過ぎマン（埼玉県　17歳）

電車を見る親子　反抗期の自分には懐かしい光景

ウノ（滋賀県　17歳）

君の笑顔をみていたい。今日は許せる遅延電車。

H・A（和歌山県　18歳）

駅舎に鳥の巣　彼らか僕か　早く笑顔で　飛べるのは

枝 常信（滋賀県　40歳）

君の笑顔がまぶしくて 不意に立ち止まる遅めの朝

遠藤 瑳愛佳（宮城県　15歳）

駅で見かけた君は　ランドセルの頃より男前。

大木 ゆかり（埼玉県　54歳）

駆け込んだ先に君。間に合わなかった心の準備。

岡崎　陽佑（東京都　33歳）

思い切って席を譲った。心の中が笑顔でいられた。

岡本　望（滋賀県　52歳）

無頓着な車内、赤子には微笑みかけてしまうもの。

カエデノオハナ（宮崎県　17歳）

気になる君と会えた日は　雨のち虹　私の心の天気予報

春日 真実（東京都　20歳）

窓越しに運転席を覗きこむ小さい背中 遠い日の僕

勝本 優希（滋賀県　12歳）

出発する私の涙と母の笑顔。私、頑張ってるよ。

クレオメ（長崎県　20歳）

向かいに座る彼、向けてよ私にも、その笑顔を

桑名　未来（愛媛県　22歳）

反対ホームで別れた君と電車が来るまでにらめっこ

消しゴム（新潟県　13歳）

夏めく車内と笑い声 イヤホン要らず 青春の音

コアラ（滋賀県　17歳）

教えてチャットＧＰＴ電車で彼の笑顔を見る方法

こっち（東京都　47歳）

連結を挟んで座る秘密の恋　声届かずも合う目線

ごましお（大阪府　28歳）

駅舎で上京する兄の出発を笑顔で見守る親の後ろ姿

佐口　佳誠（滋賀県　14歳）

田舎駅　乗車までは30分「肌寒いね」と繋ぐ小指

佐久間 美里亜（茨城県　32歳）

駅舎にぽつり君と僕　鼓動かき消せ雨粒の音

桜小町（神奈川県　32歳）

「どうぞ」決意の三文字「ありがとう」優しい笑顔

佐々木 柚（滋賀県　13歳）

桜撮る君の背を撮る駅ホーム 車掌が笑っていた

三郎（千葉県　73歳）

君が乗る電車が見えたら 蝉時雨もホームの聖歌隊

柴田 修三（三重県　73歳）

朝のホームの人混み　弁当の忘れ物案内に笑いの渦

柴田 富貴（三重県　66歳）

あの別れは出発だったと、今なら笑顔で言える。

代田　いずみ（東京都　48歳）

窓越しの君 吊革ずらしてそっと見つめる

水涸　木犀（千葉県　27歳）

毎朝次々と人を充電していく駅員さんの笑顔

すーざん（愛知県　41歳）

わざと君を通せんぼする僕は意地悪な改札機

すぎやん（愛知県　65歳）

君が席を去った後　その席に自然を装いそっと座る

鈴虫（兵庫県　70歳）

君と毎朝乗った旧1番線は、二人の永久欠番。

刹那（北海道　49歳）

改札を　足取り軽く　すり抜ける　君に会いたい月曜日

宗樹（福岡県　64歳）

人生は片道切符の一人旅　土産は君と出会えた奇跡。

高塚　潤（静岡県　73歳）

母が笑顔で言ってくれる気を付けては最強のお守り

武田　優史（滋賀県　14歳）

忘れ物探しにあの駅へ、君と出会ったあの駅へ

田中　正博（東京都　60歳）

進路はそれぞれ違うけど 向いのホームで会えるよね

田中　美咲（滋賀県　50歳）

スマホ夢中と思いきや席譲ってくれて、ありがとう

谷池　直美（大阪府　60歳）

春、それぞれの出発、鞄に夢と笑顔を詰め込んで

寺尾 修（滋賀県　48歳）

マスク越しの、でも確かにあった私たちの青春

永和（広島県　20歳）

いつも僕を揺らし続ける電車と君の「おはよう！」

中井 亨子（愛知県　51歳）

5年ぶり故郷の駅舎で心が弾む。母さん、みっけ。

永田　智子（福島県　40歳）

あなたの名字になったことを噛み締める定期券

中村　里奈（滋賀県　29歳）

故郷を離れる駅で　手を振る母の　笑顔忘れじ

寧茶（奈良県　63歳）

「出発よーし」の大きな声に弾ける笑顔の娘達

長谷川　真由美（京都府　37歳）

「初めまして」は、通学電車でしたね、旦那様

ハタ・サワ（神奈川県　44歳）

再開の笑顔、駅舎が二人のタイムマシーン。

ビボア（岡山県　50歳）

マスク外して初めて知った君のえくぼと笑い声

広島　レモン（滋賀県　37歳）

急発進！停車！進行！急停車！君との恋はいつも賑やか

福島　にこ（東京都　14歳）

あの子が待つホーム　一段飛ばしで駆けた青春

藤田　佳代（愛知県　49歳）

二人席微笑み合う老夫婦　私の理想のターミナル

藤本　惟来（兵庫県　18歳）

駅のホーム雨の匂い。刻まれた思い出蘇る。

藤原　菜桜（滋賀県　12歳）

乗る時、手はギュだよ。幼子のエスコートに胸キュン。

ペタペタ（福島県　42歳）

ロングシート一列に行儀よく、部活指定の同じ靴

ベンジャミン（兵庫県　47歳）

揺れる電車　触れる肩　笑顔の意味を教えてよ

前田　夏菜子（埼玉県　28歳）

駅舎の落書きソッと撫で　誰にも言えない片思い

maemuki桜来（千葉県　48歳）

カップル横目に口癖の「女子校の青春も最高だ」

松本 瑞己（兵庫県　16歳）

決まらない　遠い町へゆく君を　どんな顔で見送るか

ミナト（埼玉県　32歳）

いつもの場所へ特別な場所へ 始まりはいつもこの駅舎

笑波（大阪府　24歳）

名も知らぬ君の笑顔に会いたくて電車一本早く乗る

峯岸　佐千子（群馬県　58歳）

トンネルを出て、景色までも上書きする君。

明光　翼（滋賀県　13歳）

曇りドア窓に「恋」と。誰かの忘れ物かな。

むに太郎（神奈川県　26歳）

出発をお父さんに合わせてみる 反抗期なりの愛情

村井 愛実（滋賀県 14歳）

まだ誰もいない駅舎で 今日も笑顔の練習をする

村山 哲也（愛知県 21歳）

他愛無い君の話に帰り道 仲良く笑う私と吊り革

めんだこ（神奈川県 18歳）

全力で走った君。手には賞状、顔には笑顔咲く帰路

持田　悠萌（滋賀県　15歳）

旅立ちの日に切符を切った駅員さんは駅長に

谷田部　達郎（埼玉県　73歳）

よろけて掴まる君の腕、この吊り革は私専用

矢部　未弥（静岡県　17歳）

電車の中で笑顔の練習 もうすぐ君が乗ってくるから

山川 有愛（滋賀県 14歳）

新しい制服を着る君へ駅員室からいってらっしゃい

山田 哲平（滋賀県 15歳）

電車内に響く送信音 ソワソワしながら返事を待つ僕

山根 孝人（滋賀県 13歳）

「笑うと目なくなるの好き」　水平線の見える駅にて

山本　貴幸（大阪府　35歳）

君と行った夏祭り、帰りの電車、窓際ラムネ瓶二つ

山本　裕樹（滋賀県　13歳）

向かいのホームの君の手話「ボタン取れてる」

ゆきぼたる（新潟県　76歳）

仕事終わり駅舎で飲むビール　これが大人の青春か

ヨボセヨ（東京都　26歳）

団体賞

大津市立打出中学校（滋賀県）

大津市立堅田中学校（滋賀県）

審査員コメント

●大津市副市長　杉江　達秀

審査員をさせていただき4年目。いつの間にかこの時期が来るのを楽しみにしている自分に気が付きました。♪青春時代が夢なんてあとからほのぼの思うもの～～♪　♪青春の後姿を人はみな忘れてしまう～～♪私の青春時代の歌を思い出しながらメッセージを読ませていただきました。いつもながら頭にしっかりと情景描写を描けるか、およそ21文字の言葉がスムーズに流れているかに重きを置いて審査しました。全部素晴らしい作品です。皆さんの素晴らしい作品に出会えて、本当にありがとうございました。

●日本放送協会大津放送局長　小磯　亮

21文字メッセージを初めて審査しましたが、私にとって欠かせない「言葉の取扱説明書」になりました。今年のサブテーマである「笑顔」を一つとってみても、たくさんの笑顔に会えました。「あふれる笑顔」「無邪気な笑顔」から、「作り笑顔」まで、それぞれの情景が目に浮かび、都度、胸がキュンとなったり、クスっと笑ってしまったりしました。自分も人も周りも幸せにする「笑顔」という言葉。その使い方をじっくり味わうことができました。来年も再来年もたくさんの〝トリセツ〟に出会えることを願ってやみません。

●トヨタモビリティ滋賀株式会社　片岡　哲

どの作品も「青春」について様々な想いが込められているなという印象を持ちました。つい微笑んだり、自身の青春時代を思い出したりと自然と作品で描かれているシーンをイメージしてしまうほど、どれも興味深い、面白い作品でした。次回以降の応募作品も期待したいと思います。

●大津商工会議所女性会会長　岡澤　則子

大津商工会議所女性会では今年も丹念に二次審査を行わせて頂きました。当会もここ一年色々と多忙で今年の審査員はいつもの半数の八名でしたが、十年来のベテランばかりで取り組ませて頂きました。青春まっしぐらのトキメキの詩が七十代で、人生経験の重みを感じる詩が十代だったり、毎年ながら驚かされます。遠い日に思いを馳せる、未来に夢を描く、この二つの逆ベクトルの傍にいつも「電車」があることにとても深い感慨を覚えます。京阪石坂線は当会のメンバーもその多くが青春を過ごした（約半世紀前？）懐かしい路線ですので審査にも熱が入ります。限られた文字数でその思いを表現する難しさを実感しながら、我々ながらに「言葉」と「心」が融合した素晴らしい作品を選ばせて貰ったつもりです。ありがとうございました。

●毎日新聞大津支局長　藤田　文亮

淡い恋心を中心に自らの心情をつづった作品が多い中、他者への慈しみのまなざしや、他者からの慈しみへの感謝の作品に出会えたことが嬉しかった。6歳が望む車椅子やベビーカーのバリアフリー、中高生らにとって嬉し恥ずかしの席譲り、向かいホームへ送る手話に込めた愛おしさ、静かに背中を押してくれる親へ

の思い――。作品を読ませていただきながら、世の中がこんなにトキメキと優しさに包まれたならばどんなにいいだろう、と感じました。

●近江鉄道株式会社　堀口　潔

多くの作品を拝見し、自分の思い出に重なり非常に懐かしく思える作品や自分にない目線で見られている作品、情景がありありと目に浮かぶ作品など、非常に感慨深いものがありました。みじかい言葉でそれぞれの思いを表現されており、審査をさせていただく立場でありながら、深意がしっかりと読み取れていない部分も否定はできませんがそこのところはご容赦いただければと存じます。

なかなか、このような作品に接する機会もなく、また作品を拝見する中でとても心が洗われた気持ちになりました。

「21文字メッセージ」素晴らしい取組だと思います。ありがとうございました。

俵万智さん総評

駅舎や電車が、人生の大切な場面の舞台であることを、あらためて感じました。日常的なものでありつつ、特別な空間でもあるんですね。それがみなさんの作品を通して伝わってきました。

俵万智（たわらまち）歌人

早稲田大学卒。１９８６年、作品「八月の朝」で第32回角川短歌賞受賞。１９８７年、第一歌集「サラダ記念日」を出版、ベストセラーとなる。翌年、「サラダ記念日」で第32回現代歌人協会賞受賞。２００４年評論「愛する源氏物語」で第14回紫式部文学賞受賞。第四歌集「プーさんの鼻」で２００６年第11回若山牧水賞受賞。歌集の他、小説、エッセイなど著書多数。歌集「未来のサイズ」で詩歌文学館賞、迢空賞。長年の清新な創作活動と短歌の裾野を広げた功績により朝日賞ならびに紫綬褒章受賞。最新歌集は『アボカドの種』。

ポスターデザイン：角谷 和好　監修：びわこデザイン文化協会

滋賀県知事祝辞

「第17回　青春21文字のメッセージ」作品集の御完成、誠におめでとうございます。

今回は５０２２作品もの応募があり、中には毎年応募されている方、何点も応募された方、そして海外から応募された方もおられると伺っており、このプロジェクトが毎年多くの方の楽しみとなっていることを喜ばしく思います。そして私自身も過去に作品を応募したことがあり、毎年受賞作品を見るのを楽しみにしている１人です。

今回のテーマは「出発」「駅舎」「笑顔」でしたが、同じテーマでも年齢層や環境によって全く違う作品となっており、皆様の日常の中にある電車や駅が舞台だからこそ人の数だけのドラマがあるのだなと、そんな思い出の一部を共有いただけ嬉しい限りです。

これからも電車が皆様の日常に寄り添えるよう、公共交通の魅力を発信してまいりますので、この作品集を読んで「久しぶりに電車に乗ってみたいな」と感じられた方は、ぜひ滋賀に足を運んで、この青春21文字のメッセージの発端となった京阪石山坂本線に乗って新たなドラマを作ってください。

最後になりますが、このプロジェクトに御尽力いただきました関係各位の皆様に厚くお礼申し上げるとともに、今後ますますの御発展と皆様の御活躍をお祈りし、お祝いの言葉とさせていただきます。

令和６年吉日

滋賀県知事　三日月　大造

大津市長祝辞

「第17回青春21文字のメッセージ」の作品集が発刊に至りましたこと、心からお喜び申し上げます。

この「青春21文字のメッセージ」の事業は、京阪電車の石山坂本線に21の駅があることにちなんで始まり、今年で17回目を迎え、大津発の独自の文芸として定着しつつあります。

今回は「出発」、「駅舎」、「笑顔」をサブテーマとして作品を募集され、昨年度を超える５０２２点の応募が全国各地から寄せられたことから、本事業の趣旨が多くの人の共感を呼び、厚くご支持いただいていることを改めて感じ、深く敬意と感謝の意を表する次第でございます。

今回受賞された作品は、電車にまつわる青春や日常のかけがえのない瞬間を切り取って私たちに見せてくれる魅力的な言葉ばかりで、21文字という限られた文字数で自身が表現したいことに誠心誠意向き合う作者の熱い思いが、ひしひしと伝わってきます。

これからも「21文字メッセージ」が多くの人の心を豊かにするとともに、本事業を通じて文化の輪がますます広がっていくことを期待しております。

結びになりましたが、事業や作品集の制作にご尽力いただきました関係各位の皆様に厚くお礼を申し上げます。

令和６年吉日

大津市長　佐藤 健司

ポスターデザイン：井上カツオ

今年の活動を振り返る

クラウドファンディングについて

今回もクラウドファンディングを行い、目標額を達成しました。昨年同様にリターン品の提供を協力頂いた各社に加えて、新規の協力企業も加わりました。

今回のリターン品の特徴として、地元・大津を舞台とした青春小説「成瀬は天下を取りにいく」の作者・宮島未奈さん作品とのコラボを実施。大津を舞台にした同青春小説をこの事業では応援をしており、サイン入りの小説本と小説の聖地巡礼となるリターン品企画を地元の皆様の協力を得て採用しました。

「青春21文字のメッセージ」の発祥は京阪電鉄石坂線ですが、鉄道グッズ提供協力事業者として滋賀県内の鉄道は5社（京阪電鉄、近江鉄道、信楽高原鐵道、ＪＲ西日本、比叡山鉄道）に増えました。駅や車内での作品発表の場の提供など広報面での協力も大きな魅力になっています。

クラウドファンディングのサイトで活動を知った方、文化活動や電車に興味のある方など、様々なきっかけで活動に着目して支援して下さいました。添えられている皆様からのメッセージをいくつかご紹介します。

■昨年に引き続き、今年もプロジェクトを応援します。眩しくなるほどの青春作品が鑑賞できるのを楽しみにしています。

■文化活動を応援しています！　頑張ってください！

■この青春21文字がいつか滋賀県発の文芸として発展し、全国へ響き渡ることを期待しています。

■毎年、車内や駅で見るたびに、つり革にぶら下がって通学していたころを思い出し、甘酸っぱくも爽やかな気分

になります。サラリーマン川柳の向こうを張ったアニュアルイベントとして認知度を上げられたらいいですね。

■40年ほど前、高校生の時、電車通学していました。故郷を離れて久しいですが、今も琵琶湖と瀬田川の風景が目に浮かびます。素晴らしい「青春メッセージ」を楽しみにしています。

■滋賀県に来て初めてこちらの取り組みを知りました。素晴らしいと思います。幅広い世代から支持され、末長く続くことを願って支援させていただきます。

■第15回からこのプロジェクトと出逢い、今年もまた支援させていただきます。電車と青春の思い出を振り返りながら、全国から寄せられる皆さんの瑞々しい21文字を心待ちにしております。運営に携わる皆さまのご尽力にも感謝を添えて。

「成瀬は天下を取りにいく」宮島未奈著

「滋賀をみんなの美術館に」概要と「21文字ｉｎ美術館」賞の発表

昨年に続きこの事業は、滋賀県文化芸術振興課美の魅力発信推進室が募集した令和5年度「滋賀をみんなの美術館に」プロジェクトに採択されました。私たちが長年続けてきた21文字のメッセージは「言葉を磨き、言葉の美を見つける取り組み」と言え、事業の一環として滋賀県立美術館にて「青春21文字のメッセージ展」を開催しました（写真①）。

今年は、美術館の都合で開催日が12月20日までにということで、12月12日（火）～17日（日）に実施しました。今年の選考過程で、この時点ではまだ最終審査中の時期でしたので、決定していた入選１００作品を披露しました。また、これまでの最優秀作品も合わせて展示しました。開催案内は、新聞やチラシ・ポスターでの駅・電車内告知に加えて、入選者にも事前に連絡しました。

開催中、来場者の方に今年の入選作品から気に入ったものを投票してもらい「21文字ｉｎ美術館」賞を選ぶということを試みました（写真②）。来場いただいた方々は、皆さん本当に真剣に１００作品を見て、時間をかけて何度も何度も確認して投票してくれました。述べられる感想も「心が温かくなった」「いい取り組みやね」との声が多くありました。

今回の会場展示は、特定非営利活動法人BRAH=art.の協力で、過去の優秀作品や取り組みを、動画にして上映しました。動画は、冒頭「青春組たてキット」というグループの制作によるイメージ映像「セピア色の青春」、

過去16回の優秀作品の紹介。そして、これまでの活動の履歴として電車の車体に受賞作をラッピングした電車。電車が動く舞台となって町ゆく人を早春の風物詩として和ませていた当時の動画を上映しました。会場で思わず笑顔が浮かぶ時間旅行ができました。

さらに、会場を電車内にいるかのようにディスプレイ。近江鉄道の協力で車両のシートを借り、家具職人が台座を制作し人が座ることができる様にしました（写真③）。吊り革も壁面に設置、ゆったりと車両の椅子に座って電車内や走行風景の映像を見ることができ効果的な演出となりました。

「青春21文字のメッセージ展」（滋賀県立美術館）

会期中の16日（土）に「音で聴く21文字メッセージ」というイベントを開催しました。「ボランティア朗読 比良の風 琵琶のさざ波」による過去の優秀作と俵万智さんの講評を耳で聴く試みを行いました。作品を改めて耳から聞くことで描かれる「電車と青春の世界」が身近になりました（写真④）。加えて、大津が舞台で、今話題の青春小説「成瀬は天下を取りにいく」の「ありがとう西武大津店」の章を大津弁のイントネーションで朗読。地元ゆえに「なっとく」といった反応が聴衆に見受けられました。

昨年ゴリラ祭ーズに製作してもらった「21文字のうた」を、メンバーの古賀礼人さんがソロボーカルとギターで演奏。あたたかな歌声が心にしみました（写真⑤）。

「青春 21 文字のメッセージ展」（滋賀県立美術館）

これまで募集し発表する側である私たちは、受け取り手である読者と作者との関係性は長年想像の中での世界でした。が、美術館で「21文字メッセージ」をビジュアルに展示したことで作者と読者がこの場で出会い、弾ける笑顔で会話する交流を見ることができました。メッセージが持つコミュニケーション力を実感でき、今後の活動への原動力にもなりました。

会場の投票で選ばれた作品です。

●金賞：子ども切符を買った子の手に十円の跡

●銀賞：君が好きだと叫びたい　発車ベルに負けない声で

●銅賞：無口な君が席をゆずる。私の心の席に君が座る。

母さん、私50超えたんよ。駅まで一人で大丈夫

スマホ夢中と思いきや席譲ってくれてありがとう

（文中　敬称略）

画家 寺田みのるさんコメント

（＊）地元を愛する画家　寺田みのるさん。各地の鉄道の沿線スケッチ（電車のある風景）を寄せて下さいました。

瀬田唐橋

旅も、通学も、通勤も、わずかな時間に、いっぱいの人間ドラマがあります。いつまでも青春21文字で日々を過ごしたいものですね。

●プロフィール

寺田みのる、大津市生まれ。旧三洋電機企画部長。
世界水彩画精鋭選抜展招待作家。
大津市絵画展審査委員長、個展１００回　イタリア、フランスでも開催、著書多数

前回（第16回）受賞者コメント

前回（第16回）受賞者コメント

●桐山　菊子（大津市長賞）

第16回青春21文字のメッセージ・市長賞をいただきまして、ありがとうございました。まさかの受賞には大変驚きました。

数年前に募集を知り、「どなたでも……」の文言にクラッときたのが始まりでした。

昨今の電車の中の風景は、十人中八、九人までがスマホに視線。かく言う私も、座ればついスマホをチェック。でも、大音を出すでもなく、黙々とスマホを眺める老若男女を運んでいくこの風景は、何だか平和だな、と感じたことからでした。

俵万智氏の選に与れたこともさることながら、子どもや孫のような若い人たちに交じって賞をいただいたことは、恥ずかしくも、嬉しい出来事でした。自分自身の励みにもなり、幾つになってもチャレンジ精神を忘れない大切さを、今更ながら学んだ気がします。

青春21文字のメッセージを通して、電車も人のこころもずっと繋がっていける世でありますように、と念じております。

作品　【電車に乗れば皆スマホ 小さな平和が揺れて行く】

●大津市立堅田中学校（団体賞）

この度は初めて団体賞をいただき、大変嬉しく思います。本校の生徒たちにとっても、今回の受賞は今後の活動の励みになるものでした。

「青春」という言葉を聞いて、何を思い浮かべるか？

こう問いかけると、子どもたちは次々に自分の思う「青春」を口にします。

大人の思う「青春」と、今の中学生が思い描く「青春」は、同じようでどこか違います。大人では思いつかないような場面を切り取って、そこから言葉を紡いでいく中学生たち。「え、そんな場面で⁉」と思うような一瞬でも、子どもたちはたくさんの青春を感じています。そして完成した作品を見て、その子が感じる青春の断片を、共に感じることができるのも、楽しみのひとつだと思います。　この取り組みに参加させていただいてから、子どもたちの感性には驚かされることばかりです。

今の中学生の「こんな青春がしたい！」という素直な思い、「青春してる！」という喜びを、ぜひ一緒に感じてほしいと思います。

●宮城県名取高等学校（団体賞）

本校では、国語科からの課題として、「青春21文字のメッセージ」に応募させていただきました。その結果として団体賞を受賞することができ、大変光栄に思っております。

宮城県名取高等学校は、ＪＲ東北本線、阿武隈急行線など、複数の在来線が交わる場所にあります。毎日電車を利用して通学している生徒がほとんどです。このように、生徒にとって日常になじみ深い「電車」と、まっただ中

にいる「青春」の一コマを、21文字に込めることで、表現力や想像力を育むのに適した題材が「青春21文字メッセージ」であると感じております。

学校として賞をいただくことができたので、自信を持ち、生徒が課題に取り組む際の意欲向上に繋がりました。今後も国語科として積極的に応募していきたいと存じます。

最後になりましたが、選出してくださった審査員の皆様、プロジェクト運営に携わる皆様、関係者の皆様に御礼申し上げます。今後もこのプロジェクトが継続されますことをお祈りいたします。

阪堺線　堺で

あとがき

第17回の応募総数は５０２２作品でした。毎回設定するサブテーマですが、今回は、青春時代で「出発」電車関連で「駅舎」、そして長かったコロナ禍から解き放たれ、こぼれる「笑顔」の３つとしました。応募作中「笑顔」が最も多く、組み合わせでは「出発＆笑顔」でした。

俵さんから全体講評で、「駅舎や電車が、人生の大切な場面の舞台であることを、あらためて感じました。日常的なものでありつつ、特別な空間でもあるんですね。それがみなさんの作品を通して伝わってきました。」というコメントを頂きました。

恋や愛をうたった作品も変わらず多かったのですが、今回は暮らしの中であたたかくホッとする情景のうかぶ作品にたくさん出会えた気がします。

知事賞の「子ども切符を買った子の手に十円の跡」思わずその光景が目に浮かび、いとおしくなります。この作者は「近江鉄道　駅務員」の方で、「夏休みこども10円１デイパス」の発売期間中のことだそう。しっかり握りしめた拳、開くと汗づくの手のひらに10円玉の柄がくっきり！有人駅での切符の販売や改札だからこそ生まれた作品です。大津市長賞の「さり気なく譲る少年。お腹の子もそう育てたい」。車内でふと目にした一瞬、見る人の心にしみる、作品を読んだ人までもおもわず頬がゆるみます。

「えき」「駅」とせず「駅舎」としたことで、「押し入れの古いスケッチブック。今は無い故郷の駅舎。」「家以外にも「お帰り」を感じる駅がある幸せ。」など今まで以上に建物やその匂いまでが漂うような作品にも多く出会えた気がします。

特に今回は電車という装置ならではの言葉がちりばめられていました。吊り革、上りと下り、駅員さん、発車ベル、席をゆずる、キップ、定期券、電車を見る、改札機、1番線、駅と雨、忘れ物、イヤホン、無人駅など。小道具が雄弁に喜びや感動、ささやかな後悔をも語りだす。日常的なものでありつつ、特別な空間・出会う場となる駅や電車。

今回知事賞を受賞した作品が鉄道会社勤務の方で、運賃を受け取る側だからこそ、気づいた新鮮な感動。利用者である乗客だけでなく、対応する鉄道側の人から見る作品は、新たな世界を生み出しますね。

２００６年に活動が始まりはや18年、この間の世の中の変化は思った以上に目まぐるしいものでした。以前はウェブ応募は若い世代が多く、高齢の方はハガキやＦＡＸが主体だったのが、60代、70代も他世代と同じくらいにウェブの数が増えました。スマホや通販などウェブでの日常行動が当たり前の時代となりました。先行きの見えなかったコロナ期を経て、マスク越しの青春、マスクがなくなって3年ぶりに初めて顔を知ったという今年の作品も時代を映し出しています。長年この事業に関わっていると、作品からいろんな歴史や社会情勢が間接的にですが鮮明に浮かびあがりきます。

しばりは「文字の数と電車という場」だけで、青春という時代を自由に語り創作ができる21文字メッセージ、まだまだ知らない人が多いのですが、電車に関わる業界の方にも浸透すれば、「お互いに笑顔の、心地よい人とのつながりを生む事業」になると信じて活動を続けていきたいと思います

「電車と青春21文字プロジェクト」代表　福井美知子

協力者リスト

令和5年度

【協力団体・企業】

滋賀県（滋賀県知事賞）
大津市（大津市長賞）
株式会社叶 匠壽庵（青春賞）
大津商工会議所女性会（さわやか賞）
トヨタモビリティ滋賀株式会社（ユーモア賞）
京阪電気鉄道株式会社（鉄道賞）
近江鉄道株式会社（鉄道賞）
信楽高原鐵道株式会社（鉄道賞）
西日本旅客鉄道株式会社（鉄道賞）
比叡山鉄道株式会社（鉄道賞）
一般財団法人天智聖徳文教財団（近江勧学館賞）
京都信用金庫（団体賞）

共催：大津市
後援：滋賀県
主催：電車と青春21文字プロジェクト
　尼田賢光、石坂線21駅の顔づくりグループ、ＮＨＫ大津放送局局長 小磯亮、大津市社会福祉協議会、京都信用金庫大津支店、京阪電気鉄道、しがトコ、びわこビジターズビューロー 川戸良幸、毎日新聞大津支局、名鉄観光サービス株式会社　ほか（50音順）
協力：大津市社会福祉協議会、特定非営利活動法人BRAH=art.、びわこデザイン文化協会
第17回作品募集ポスターデザイン：角谷和好（びわこデザイン文化協会）
滋賀をみんなの美術館にポスターデザイン：井上カツオ
装画：寺田みのる
表彰式オンライン技術支援：岩原勇気

第 17 回　青春 21 文字のメッセージ

2024 年 2 月 24 日発行
編集・発行：電車と青春 21 文字プロジェクト

© 2024 電車と青春 21 文字プロジェクト
無断転載・複製を禁じます。

お問い合わせ先：
E-mail: densyatoseisyun21@gmail.com
Web: www.densyatoseisyun21.com

滋賀をみんなの美術館に

◉「令和5年度滋賀をみんなの美術館に」
プロジェクト採択事業

青春21文字メッセージ